愛媛小林製薬㈱ 環境経営レポート

対象期間: 2021 年 1 月～2021 年 12 月

2022 年 8 月 発行

2022 年 11 月 更新

エコアクション21®
認証番号0000050

2022
健康経営優良法人
Health and productivity

SYSTEM CERTIFICATION ISO 13485 SGS
UKAS MANAGEMENT SYSTEMS 0005
熱さまシートの製造業務において認証取得

<目次>

- 組織の概要 1
- 対象範囲、レポートの対象期間および発行日 2
- 環境経営方針 3
- 環境経営計画 4
- 環境経営目標と実績 5
- 事業活動に伴う環境への負荷 6
- 環境活動の取組内容(2021 年度) 7
- 化学物質の安全管理 8
- 環境関連法規等の遵守状況、並びに違反訴訟等の有無 9
- 環 境 会 計 10
- プラスチック資源循環促進法の対応 11
- 代表者による全体評価と見直しの結果・指示 12

● 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

愛媛小林製薬株式会社 代表取締役 社長 岩城 昌弘(いわき まさひろ)

2. 所在地

〒792-0892 愛媛県新居浜市黒島1丁目7番24号

3. 事業活動の内容

不織布製品(衛生雑貨品)製造業

4. 主な製造品

◇パンティーライナー(サラサーティ関連)
◇解熱用ゼリーシート(熱さまシート)
◇マスク(のどぬーる ぬれマスク)
◇汗とりパット(あせワキパット)
◇めがねふき(メガネクリーナふきふき)
◇電子レンジクリーナー(チン！してふくだけ)

5. 環境管理責任者及び担当連絡先

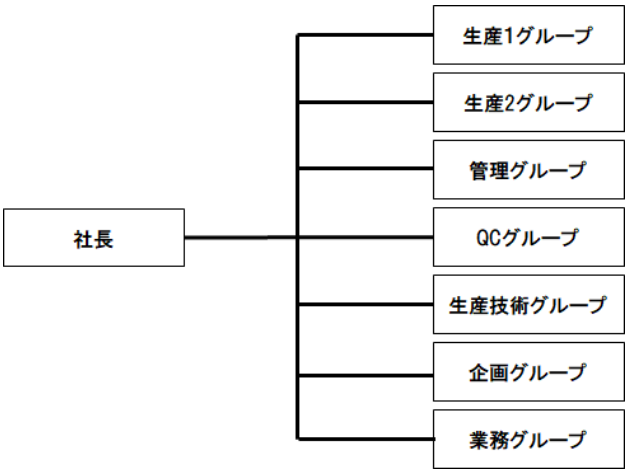
責任者	生産2グループ	大西輝男
担当者	業務グループ	日野徹也
連絡先	電話	0897-45-3777
	FAX	0897-45-4111

6. 事業の規模

年度	2021	2020	2019	2018	単位
生産量	4,924	7,161	8,225	7762	t
売上高	3,509	4,874	5,155	4933	百万円
従業員数	182	206	223	218	人
床面積	11,526	11,526	11,526	11,526	㎡

● 対象範囲、レポートの対象期間および発行日

1. 認証・登録範囲 愛媛小林製薬株式会社



2. 報告対象期間 2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日

3. レポートの発行日

2022 年 8 月発行

2022 年 11 月改定

● 環境経営方針

愛媛小林製薬㈱ 環境経営方針

環境理念

私たちは、小林製薬グループの「環境宣言 2030」に基づき、世界共通の環境課題を正しく理解し、化学物質による環境影響を小さくするよう全員参加で自主的・積極的に、解決のためのアイデアを出し合い、実行し続けます。

環境行動指針

【① 法令遵守及び自主基準の策定と実行】
環境関連の法規制を遵守することはもとより、自ら環境改善目標・自主基準を定め継続し実行します。

【② 温室効果ガス排出削減】
エネルギー利用の効率化や浪費の排除、再生可能エネルギーへの転換など、温室効果ガスの削減に努めます。

【③ 天然資源への配慮】
水使用量の削減、及び排水基準の管理徹底により、地域社会への環境負荷軽減に務めます。

【④ 廃棄物の削減とリサイクルの推進】
工程ロスを減らし、生産活動における排出物の削減を図ります。また分別の徹底を行い、再資源化の促進に努めます。

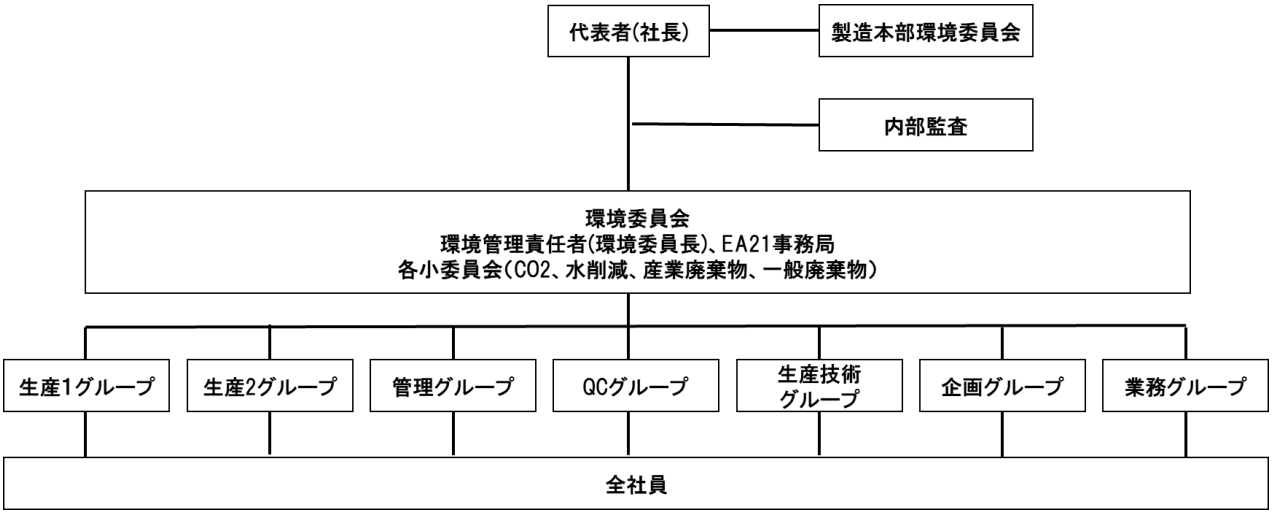
【⑤ 環境経営方針の共有、及び環境活動の開示】
環境経営方針を全社員で共有し、教育・啓発活動を通して一人一人の環境保全意識の向上に努めます。
また、地域社会に対して、環境活動を支援するとともに、これらの取組みを情報公開いたします。

2003 年 11 月 1 日制定　2022 年 1 月 1 日改訂
愛媛小林製薬株式会社

代表取締役 岩城昌弘

● 環境経営計画

1. 環境対応組織図



2. 環境委員会事務局組織

・環境委員長
・副委員長
・書記
・補佐
・CO2 削減小委員会リーダー
・廃棄物削減小委員会リーダー
・水削減小委員長会リーダー
・一般廃棄物小委員会リーダー

3. 従業員の健康対策

・健康経営優良法人 2022 を取得いたしました。
・6S(安全衛生)委員会：産業医による毎月１回の定期巡回しております。
・有機溶剤関連の作業環境測定と定期健康診断を実施しています。

4. 環境目標設定について

・国や地方自治体の法規制を遵守します。
・小林製薬製造本部の目標達成のため愛媛小林製薬株式会社の目標を設定します。
・愛媛小林製薬株式会社の製品の特徴、地域性を考慮し、環境負荷の大きい所から重点的に目標を設定します。
・小委員会活動において、各種の削減のための、目標⇒計画⇒実践⇒評価を行います。

5. 報告書の作成

2000 年度より毎年１回環境経営レポートを発行しています。

● 環境経営目標と実績

数値目標は、3 か年事業計画年度に合わせて、計画年度の 2019 年数値を基準として、CO2、廃棄物、水使用量、化学物質の削減は、生産重量原単位 0.5%減/年を目標にする。

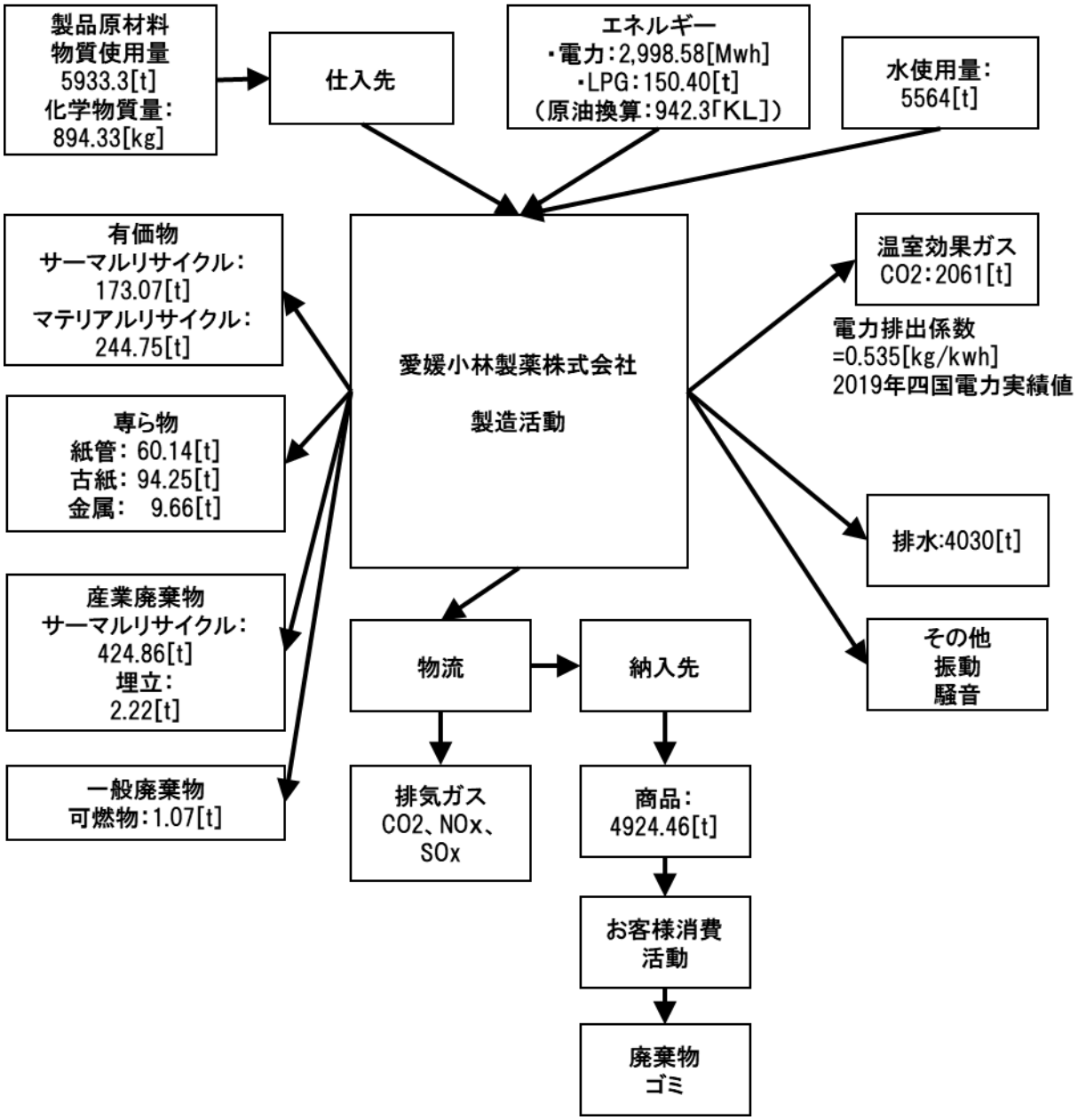
		2019 年度	2020 年度(初年度)		2021 年度(2 年目)		2022 年度(最終年度)	
		基準年	目標	実績	目標	実績	目標	実績
生産重量[t](予測)		8,225	7,855	7,161	6445	4,924	5,663	
CO2 排出	CO2 排出量[t]	2,566	2,435	2,491	1991	2,061	1739	
	電力由来	1,973	−	1,915	−	1,604	−	
電力排出係数 =0.535[kg/kwh] (2019 年四国電力実績値を基準)	LPG 由来	585	−	570	−	451	−	
	車両燃料由来	8	−	6	−	6	−	
	生産重量原単位	0.312	0.310	0.348	0.309	0.418	0.307	
	原単位基準年比	−	0.5%減	11.5%増	1.0%減	34.0%増	1.5%減	
産業廃棄物	排出量[t]	767	728	553	595	426	520	
	生産重量原単位	0.0932	0.0927	0.0772	0.0923	0.0865	0.0918	
	原単位基準年比	−	0.5%減	16.7%減	1.0%減	6.3%減	1.5%減	
	リサイクル率	99.9	99.5	99.9	99.5	99.5	99.5	
一般廃棄物	排出量[kg]	1,760	1,673	1,830	1,366	1,070	1,195	
	生産重量原単位	0.214	0.213	0.255	0.212	0.217	0.211	
	原単位基準年比	−	0.5%減	16.5%増	1.0%減	2.36%増	1.5%減	
水使用量	水使用量[t]	10,051	9,552	7,547	7,798	5,564	6,818	
	生産重量原単位	1.222	1.216	1.054	1.210	1.130	1.204	
	原単位基準年比	−	0.5%減	13.7%減	1.0%減	7.6%増	1.5%減	
化学物質	化学物質使用量[kg]	1,777	−	1,424	−	894	−	
	移動量[kg]	35	33.3	63	27.2	51	34	
	生産重量−移動量原単位[kg/kg]	0.00426	0.00424	0.00880	0.00422	0.0104	0.00420	
	原単位基準年比	−	0.5%減	107.5%増	1.0%減	146.4%増	1.5%減	
環境性能 (有価比率の評価)	廃棄物排出量[t]	1,088	−	981	−	845	−	
	有価量[t]	321	−	428	−	418	−	
	有価率[%]	29.5	−	43.6	−	49.5	−	

● 事業活動に伴う環境への負荷

事業活動に伴う環境への影響には、次のようなものがあります。

- ◆ 生産活動で生じる環境への影響
- ◆ お客様に製品をお使い頂くことで生じる環境への影響
- ◆ 製品を作るための原材料として使用する化学物質の環境への影響

事業活動における物質フロー(2021 年)



● 環境活動の取組内容(2021 年度)

分野	手段	実施内容
二酸化炭素排出量の削減	生産効率の改善 業務効率の改善 省エネルギー活動	・高効率のガスエアコンに更新(2021 年更新実績:5 台) ・置換未完了の蛍光灯を LED 灯に交換し、LED 化完了 ・エアシリンダーをエレシリンダーに変更 ・コンプレッサーエア圧力調整(0.60Mpa→0.56Mpa) ・設備の連携やタイマーにより休憩時の電力無駄削減 ・冷房時オフィス室温を 28℃で管理 ・エア漏れ巡回、エアホース等設備からのエア漏れ対策 ・設備圧力調整によるコンプレッサー稼働削減 ・ブロアー台数削減
廃棄物排出量の削減	歩留の改善 不良品の削減 3R活動	■産業廃棄物 ・X 線検査装置導入により、良品の誤廃棄を削減 ・不織布トリムくずの有価物化 ・加工機のガイド作成によるロス削減 ・内製マスク排出ロス削減 ・冷却シートに使用される高分子ゲルの減容 ・サプライヤ協力のもと、資材ロール紙管の再利用 ・資材ロール紙管のプラ管化テスト実施 ■一般廃棄物 ・分別理解度テストを実施し、分別内容の再啓発 ・分別表の更新を実施⇒視える化 ・社内 PC の設定変更 (カラー⇒白黒印刷デフォルト設定) ・啓発ポスターの掲示 ・現品票等の紙媒体を裏紙に変更 ・夜間 FAX データの印刷停止
水使用量の削減	工程の改善 節水活動 中水・再生水の活用	・タンクオーバーフローの水排出防止 ・純水装置バルブ交換による排出削減 ・使用量集計のスマート化 ・洗浄用具を節水タイプに交換 ・機械からの水漏れ防止対策 ・真空ポンプ封水式からドライ式に変更 (水削減量 510t)
化学物質使用量の削減	薬品使用方法の改善	・PRTR 法に基づく排出量、移動量の定量的管理 ・製品ロス率の低減(活動内容は、産廃排出削減に準じる)
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	環境改善に資する製品・サービスの開発・販売, 製品の環境性能の改善	・廃棄物の有価転用評価のための有価比率集計 ・環境性能課題抽出のブレインストーミング

● 化学物質の安全管理

◆ 小林製薬グループでは、化学物質管理ポリシーを明確にしました。

https://www.kobayashi.co.jp/contribution/environment/chemical.html

化学物質管理ポリシー

小林製薬グループでは、化学物質に関する適切なガバナンス体制を構築し、原材料の選定・調達、製造、流通、使用、廃棄という製品のライフサイクルを通じて適切な化学物質管理を行うことで、環境負荷が少なく、お客様が安全に使用できる製品の提供を目指します。

そのために、各種法令の遵守に加え、海外の規制動向や国内外の業界基準・ガイドライン等を参考に、製品および原材料のリスクについて自社独自の評価を行い、化学物質の適正使用を推進します。

また、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆さまに向けたリスクコミュニケーションとして、製品の安全性と適切に使用していただくための情報について、アクセスがしやすい情報提示に取り組みます。

◆PRTR 対象物質

下記、PRTR 物質を使用しており、内、4-ヒドロキシ安息香酸メチルは、1 トン以上の取り扱いがあるため、排出量・移動量の届出を行っています。

種別	No.	PRTR 物質名	取扱量[kg]	移動量[kg]	排出量[kg]
一種	334	4-ヒドロキシ安息香酸メチル	1,320.50	66.02	0.00
二種	20	酢酸ベンジル	7.13	0.00	0.00
一種	207	2.6-ジーターシャーリーブチル-4-クレゾール	4.85	0.00	0.00
一種	85	グルタルアルデヒド	0.03	0.00	0.00
一種	31	アンチモン及びその化合物	506.01	0.00	0.00
一種	87	クロム及び三価クロム化合物	506.01	0.00	0.00
一種	82	銀及びその水溶液化合物	0.00	0.00	0.00

数値は、2021 年度（2021/04~2022/03）

◆有機溶剤の取り扱い管理

有機溶剤取り扱い作業では局所排気装置とドラフトチャンバーを使用。

作業環境測定は年二回実施しており、結果は第一管理区分を維持している。

● 環境関連法規等の遵守状況、並びに違反訴訟等の有無

●環境関連法規の遵守

・小林製薬環境委員会による内部監査の実施(2021 年 11 月 02 日実施)

環境関連法規への違反ならびに訴訟はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

環境関連法規等の遵守状況(非該当の法令は割愛)

法令の名称	該当事項	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一廃収集業者の許可の確認 ・産廃収集運搬・処分業者の許可の確認、契約 ・保管基準 ・マニフェスト交付 ・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任 ・特別管理廃棄物の帳簿の作成 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 ・処理の状況について確認の努力義務 ・自社による運搬時の表示、書類携行	○
浄化槽法	・定期水質検査(1 回/年) ・保守点検、清掃記録の保管(3 年間)	○
フロン排出抑制法	・簡易自主点検(3 か月) ・有資格者による点検 ・点検記録の保管(廃棄後 3 年間) ・漏洩時の報告	○
化学物質排出移動量届出制度(PRTR)	・排出・移動量の報告	○
消防法	・指定数量以上の危険物設備の許可申請 ・少量危険物の設備の届出申請 ・指定可燃物の申請	○
工場立地法	・緑化計画、生産施設等の新設、変更の届出	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	・排出量や排出の抑制及び再資源化等の状況、排出の抑制及び再資源化等に関する目標の策定と公表 ・削減の取り組み	○

● 苦情処理記録

2021 年度において、近隣からの苦情報告はありませんでした。

受付日	氏名	苦情内容	回答内容	備考
―	―	―	―	―

● 環 境 会 計

1. 集計方法
(1)環境庁「環境会計システム導入のためのガイドライン(2000 年版)」に準拠
(2)環境保全活動の費用(減価償却費を含む)、投資、効果を集計しています。
(3)効果は、環境保全効果(物量単位)と経済効果(貨幣単位)を集計しています。
(4)経済効果は実質的効果のみ対象としています。

2. 集計結果
集計範囲 ：（愛媛小林製薬株式会社）
対象期間 ：（2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日）
単　位 ：（千円）

環境保全コスト				
分　類		主な取組の内容	投資	費用
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）	大気汚染防止・水質汚濁防止 騒音防止・悪臭防止 省エネ対策 廃棄物処理	13,381	20,965
内訳	①公害防止コスト	大気汚染・水質汚濁・悪臭防止	2,210	3,338
	②地球環境保全コスト	省エネ	11,261	11,259
	③資源循環コスト	廃棄物処理費用		16,368
(2)	″生産・サービス活動に伴って上流又下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)″	容器包装リサイクル委託費用		
(3)	″管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	教育・環境保全担当者人件費		1,342
(4)	″研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)			
(5)	″社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	緑化・美化・社会貢献		
(6)	″環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)			
合　計				

環境保全効果			
効果の内容		環境保全効果を表す指標	
		指標の分類	指標の値
事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	二酸化炭素排出量売上原単位	0.478 tCO2/百万円
		二酸化炭素排出量売上原単位	0.340 tCO2/t
		電力消費量原単位	0.609 MWh/t
		エネルギー消費量原単位	0.187 KL/t
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	産業廃棄物発生量	483.380 t
		産業廃棄物削減率	23.7% 減
		産業廃棄物リサイクル率	99.5%
		産業廃棄物量生産重量原単位	0.098 t/t

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金額（円）
収 益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクル又は使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	2,882,012
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減（前期差）	−15,320
	省資源又はリサイクル活動に伴う廃棄物処理費の節減（前期差）	−2,158
	省資源による費用節減	9,791

● プラスチック資源循環促進法の対応

プラスチック製品の設計から製造・使用後の再利用まですべてのプロセスで資源循環をしていくため、排出量の集計、再資源化の状況、排出の抑制計画について、下記に報告いたします。

★ 2021 年度廃プラスチックの排出量と再資源化の状況

		リサイクル有無	数量[t]	割合[%]	リサイクル率[%]
廃プラスチック廃棄物排出	産業廃棄物	埋め立て	2.22	0.6	
		サーマル	397.862	99.4	99.4
		合計	400.082	100.0	

★ 排出の抑制及び再資源化等に関する目標と計画

下記施策により、生産重量原単位において、0.5%削減を目標とする。

2021 年実績		2022 年目標
生産重量実績:4924[t]	⇒	生産重量予測:5663[t]
廃プラ再資源化重量:400.082[t]	⇒	廃プラ再資源化重量目安:458.137[t]
重量原単位実績:0.0813	0.5%減	**重量原単位目標:0.0809**

・排出の抑制及び再資源施策

1. 調剤条件見直しによる設備の安定生産による稼働率の向上とロス削減
2. 生産設備のチューニングによるロス削減
3. 含水している調剤原料、製品ロスの水分除去による減容設備導入の検討

● 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

・取組みの全体評価

2021 年度は、マスクと熱さまシートの生産数量減により、重量原単位での目標は未達に終わりましたが、CO2 削減、水削減、廃棄物削減、一般廃棄物削減の 4 つの小委員会の取り組みが円滑に回った事で一定の成果を出す事ができました。

・取組結果と来期以降の方針

分野	結果	来期以降の方針、取組み
二酸化炭素排出量の削減	影響度の高い空調に絞って、生産現場毎の電力、ガス使用量を見える化し削減対象の洗い出しを実施	・サラサーティ製造現場の空調効率が悪い事が判明したので、全体空調から部分空調へ変化させる事で、エアコンの使用台数を減らしながら、快適な職場環境を維持する。 ➡OP向けのスポットクーラー化 ➡空調服の導入により、クーラー設定温度の改善を検討 ・老朽化した空調設備の計画的更新
廃棄物排出量の削減	【産廃】熱さまシートの減産が大きく影響し、数字上では削減できた 【一般廃棄物】コピー用紙削減、ゴミ箱統一化、分別知識向上のための教育等を行う事で、大幅に廃棄物を減少出来た。	【産廃】 プラスチック資源循環促進法に則り、特に熱さまシート生産における、製造工程上のロス削減、ロス品の減容処理の2方向で対策を行う。 まず、各工程でどれくらいの廃棄物が発生しているかを明確にして、それぞれの改善策を進めていく。 【一般廃棄物】 新プラ法により、分別が複雑になった為、分別の再教育が、啓蒙活動を進める事で、削減活動の風土化をめざします。
水使用量の削減	シール水不要の真空ポンプ採用による削減が出来た	・水使用の主要現場である熱さま棟における工程毎の使用量を把握する為に流量メーターを設置。使用量の多い工程について削減アイデアを出し改善を進める
化学物質使用量の削減	PRTR 法に基づく排出量、移動量の定量的管理が実施出来た	・引き続き環境委員会内で管理を行い、使用量が増大する場合は適宜対策を講じる。
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	環境員会内で環境関連の数値見える化、法令教育、課題抽出の議論等を実施	・スコープ3削減に向け、製品仕様変更を製造本部、事業部と協議して環境負荷の少ない製品仕様を工場から提案していく。

愛媛小林製薬株式会社 代表取締役社長　　岩城　昌弘　　2022 年 2 月 24 日

黒島海浜公園清掃ボランティア活動　第３８回　　2022/4/16